

# 聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

## 巻頭言

### 「込められた熱き思い」

聖書神学舎教師・鶴川福音教会牧師 久利英二

「聖書宣教会 伝道者養成訓練プログラム要覧」(1984年改訂)ン!なんだ、これ?ご記憶にない方もいらっしゃるでしょう。50年を超える聖書神学舎の歴史の中で、ほんの一時期掲げられた“看板”です。

神学舎の草創期を造られた諸先生が相次いで召され、500人にもなる卒業生、ずっと支援してこられた諸教会の方々は、神学舎の歴史の一区切りを感じておられることでしょう。歴史を重ねれば神学舎への思いや評価は様々な広がりを持つようになることは当然です。神学舎は明確な目的と指針によって生れましたから、142号にもなるこの通信にも毎回、神学舎とは何かが問い語られ続けてきました。

今回は私事を含めて恐縮ですが、上記の要覧についてふれたいと思います。1958年の神学舎創立後、母教会(長津田)の礼拝説教に来られた舟喜順一先生に初めてお会いし、61年に杉並の学舎を訪れ、ガリ刷りの「聖書神学舎要覧」を手に入れました。空地の奥にポツンとたたずむ全寮制の二階建は「塾」という感じでしたが、「聖書神学舎」という名称は私に少しの「品」を感じさせました。要覧の内容はまさに「学校」の要覧なのですが、どうも聖書を学び、聖書に生きることを目指しているらしいとわかりました。その後法人格取得の際に改名されたのですが、「聖書宣教会要覧」とは言わずに、一時期、「伝道者養成訓練プログラム要覧」となりました。これは順一先生の造語ですが、私には本来の「塾」に戻ったのだと思われました。おそらく順一先生もそのとき、神学舎とは何かを熟考され、この名を神学舎のあるべき原点だと思われたのだと推察しています。

なぜこんなことを今思ったのか。その時をさかのぼること十数年前、私はドイツの

テュービンゲン大学にいました。15世紀から続く大学で、私には別世界でした。そこには神学舎で山口昇、島田福安両先生から聞かされていた学者たち、しかもあらゆる立場の人が



いました。神学部の建物は新教とカトリックに分かれており、一方では、ケーゼマン、モルトマン、ユンゲルの教室は超満員で、他方カトリックには、カトリック批判のキュングと保守派のラツィンガー(当時40代でカトリック神学部長、現ベネディクト16世、残念ながらお顔を見ることはなかったのですが)などなど。ケーゼマンと現教皇が同じ大学にいたとは。圧倒されるような神学的華々しさ、えらいところに来ていたのです。帰国後、牧会しながら、神学舎で38年間教えることになりましたが、この間、テュービンゲン時代の華々しさは、伝道者養成訓練プログラムのゆえでしょうか、自ら封じ込めることになりました。

聖書神学舎は何をするところか。これをめぐって先生、卒業生、諸教会も絶えず考えてきました。空地の二階建から羽村の館へ、だけでなく、あらゆる点でのレベルアップがなされてきました。これからも社会や神学の変動と共に、信仰や教会のあり方、牧師・伝道者の働きも変わっていくでしょう。しかし神学舎、宣教会の底に共通する流れは、「伝道者養成訓練プログラム」に込められた、順一先生のキリスト教会への熱き思いであると考えています。古びた?この看板が神学舎の装いの裏に掲げ続けられることを願う者です。

7月3日に集中講義が終わり、夏期調整期間に入りましたが、教師としての実感はむしろ忙しくなったような気がします。7月6日から始まる夏期研修講座の準備をしなければならないからです。今年は昨年よりも多く61名の参加者を与えられ、「聖書から見る霊の働き」について考えました。昨今、「霊」の問題はいろいろなところで話題になっていますので、この問題に対しても聖書からアプローチする必要を覚えたからでした。掘り下げは十分とは言えませんが、この問題は継続的課題と考えています。

その後、恒例のキャラバン伝道が始まりました。今年は四教会にキャラバン隊を派遣し、1、2年生ら合計17名は各教会で良い訓練と交わりの時をいただいたようです(こ

れについては各報告をご覧ください)。そして、今夏、最後の行事は教会音楽夏期講習会でした。これにも今年は38名の方々が参加され、教会音楽の良い学びと研修のときとなりました。賛美も教会が直面している現在の問題で、諸教会の必要の大きさを覚えさせられました。このことに対して聖書宣教会の果たすべき役割を考えさせられています。こうして、7月の調整期間は無事終了しました。8月は少し休むことができます。しかし、卒業年度にある研修生にとっては、この夏期調整期間は、卒論・卒研に集中的に取り組むことができる最後のチャンスです。一人一人が与えられた研究課題に十分取り組むことができるようにお祈りください。

## 主の前に生きることの訓練

研修生活主任 赤坂 泉

主によって、主のものとして、主の前に生かされている、という厳粛な事実を、私たちは時として忘れてしまい、世にある務めや人との関係に没頭してしまうことがあります。日ごとにみことばに養われ、御霊の神様に助けられて、不断に主の前に生きる者でありたいものです。同様の切望を持ち、そのことに取り組んできた信仰の先人たちの知恵にも学びたいと思います。

さて、聖書宣教会の研修生活は、「主の前に生きることの訓練」である、とも言えます。

ここでは、多様な背景から召し集められた者たちが共同の歩みをしています。同級生の交わりや寮生活などで、多様な個性が出会い、ぶつかり合い、また、祈り合い、支え合っています。忘れていた、あるいは気づかずにきた自分の姿に直面させられて驚きます。そうして自分を知ることを深め、自分に失望するほどに主を知ることを追求し、恵みを知るほどにまた主を知るこ

とを追求する、そのような訓練の日々です。研修生には、他者と直面し、対決することを避ける「やさしさ」ではなく、愛するゆえに真摯に向き合うやさしさを大切にすることを励ましています。人を喜ばせるためにでなく、主の前に生かされていることを覚えているために、主にあって、互いを良く見張り合い、助け合う交わりを、ますます育てて欲しいのです。

学期の間の毎日ささげられるチャペルでの礼拝も、主の前に礼拝者として生かされていることを喜び、主の前に出るときです。和解の福音を確認し、召しを確認し、主を知ることの深め、そうして、主の前に生かされている確信をますます深くします。

礼拝を通し、みことばによって、また交わりを通し、祈り祈られることを通して、不断に、揺るぎなく、主の前にとどまることを体得していけるよう、研修生と研修生活のためにお祈りください。

## ..... 2010年夏期伝道実習から .....

今年度のキャラバン伝道も、主にあって守られ、4チーム 17名が無事に帰ってまいりました。皆様のお祈りを心から感謝いたします。

今年度のキャラバン伝道実習は、『福音のために』というテーマを掲げました。その思いを持ってそれぞれの場所へと向かった私たちでしたが、そこで見せられたのは、すでに最前線で『福音のために』奮闘しておられる先生や教会の方々の方々の姿でした。その姿に多くのことを教えられ、励まされたキャラバン伝道実習でありました。お祈りやたくさんの方々の励ましのお言葉、本当にありがとうございました。

今年度の感謝とともに、来年度のキャラバン伝道実習についてもお祈りに覚えていただきたく、付記させていただきます。10月頃には引継ぎを終えて、現1年生たちが準備を開始します。今後とも、祈りのご支援をよろしくお願いいたします。

キャラバン委員長 石井 陵太

### 揖斐キリスト教会（岐阜県）

日程：7月13日～20日

矢吹 祈、姜 明善、原田 帆海路、本屋敷 一彦

私たちは、揖斐キリスト教会で奉仕をさせていただきました。前半の3日間はほぼ雨が降り続き、後半は梅雨明け後の過酷な暑さ。その中でも一つ一つの活動が守られたことをまず主に感謝いたします。

主な活動はトラクト配布、そして教会の諸集会での奉仕、教会の方々との交わりでした。トラクト配布では、私たちが配布する場所に降り立つと雨が激しくなるという不思議な経験をしました。しかし、一枚一枚のトラクトの重さを感じながら配り続けました。地方での宣教の困難さを感じると共に、小さな歩みの積み重ねの重要性を学びました。教会の方々は、私たちをととても温かく迎えてくださいました。若者が減少し、外から人が入って来ることのない揖斐の地にあって、明るく前向きに、そして喜んで信仰生活を送っておられるの方々の方々の姿は、私たちにとって大きな励ましとなりました。中出先生を始め揖斐キリスト教会のお一人おひとり、そして神様に心から感謝いたします。



### 宮崎めぐみ聖書教会（宮崎県）

日時：7月13日～20日

石井 陵太、香川 直樹、竹内 義孝、野口 彩夏

私たちは、宮崎めぐみ聖書教会に遣わされました。池田先生ご夫妻のおもてなしと、教会の皆さんの温かい歓迎を心から感謝しています。

宮崎県は本当に良いところで、海や空など自然がとても美しく、食べ物は何を食べてもおいしく、温泉もたくさんあり、観光に来たのではないかと勘違いするほどに、毎日が感動の連続でした。

もちろん、思い違いをして毎日を過ごしていたわけではなく、『福音のために』というキャラバンのテーマを確認しつつ、様々な奉仕をさせ



ていただきました。トラクト配布や路傍伝道、子ども集会に主日礼拝など、開拓途上にある宮崎めぐみ聖書教会の働きに加えていただけたことは、私たちにとって豊かな学びであり、非常に大きな経験になりました。毎日不思議と天候が守られたり、誰も来ない可能性も十分あった子ども集会にも9名もの参加があったりと、主の御業を見せていただきました。神様の豊かな恵みに感謝しています。

## 橋本キリスト教会（神奈川県）

日程：7月20日～25日

畑田 祐二、菊池 守、久島 香子、鈴木 俊見

「私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方」（エペソ 3:20）。このみことばへの確信を深めたキャラバンでした。

出発前日に橋本キリスト教会の101歳の兄弟が天に召されました。日程は予定外の葬儀式から始まりましたが、図らずも私たちにはキリスト教葬儀の実習の機会となりました。神様のご計画の高さ、広さに御名をあがめますとともに、ご遺族の方々に主の慰めをお祈りいたします。



家庭集会や子ども伝道会、トラクト配布、高齢者施設訪問等では、教会と人を通してなされる主の働きの多様さを知り、伝道への思いを新たにしました。牧野先生の率直さと、群れ全体を見ながらも、ひとりひとりを気にかけて労しておられる牧会者としての姿勢に多くのことを教えられました。メンバーが祈り支え合いながら奉仕ができたことも主からの恵みです。教会の兄弟姉妹方にもとても良くしていただきました。すべてを神様に感謝します。

牧野先生の率直さと、群れ全体を見ながらも、ひとりひとりを気にかけて労しておられる牧会者としての姿勢に多くのことを教えられました。メンバーが祈り支え合いながら奉仕ができたことも主からの恵みです。教会の兄弟姉妹方にもとても良くしていただきました。すべてを神様に感謝します。

## 横浜キリスト福音教会（神奈川県）

日時：7月20日～28日

児玉 武志、大高 伊作、林 武志、野村 天路、若林 義也

滞在中、様々な奉仕をさせていただき、ひとつひとつの経験が貴重なものとなりました。あつという間の充実した日々でした。具体的には、日曜日の奉仕、諸集会での奉仕、子ども集会の企画、地域へのトラクト配布、高齢者施設訪問などの奉仕をさせていただきました。また教会の方々との交わりも、楽しく、幸いな時間でした。

キャラバンを通して、地域で宣教する教会に与えられる励ましをいただきました。それは、「この町にはわたしの民がいる」という励ましです。一枚のトラクトをきっかけに教会を訪ねてくださった方との出会いがあり、2日間企画した子ども会では、多くの、親子で揃って来てくれた方々とも出会えました。高齢者施設では、私たちを歓迎してくれた皆様とお会いできました。教会には、共に奉仕する兄弟姉妹がいました。

わずかな期間でしたが、主に仕える教会、献身者の姿を見、励まされました。私たちが教会の少しでも励ましになればと願います。



## 図書館だより

図書館長 津村 俊夫

現代は、必ずしも必要ではない情報が、毎日のように新聞の折り込みや、メールで否応なしに目に飛び込んできます。情報が少なすぎて苦勞すると言うよりも、多すぎて振り分けるのに時間がかってしまうということを経験するのではないのでしょうか。

リサーチの場合も、莫大な量の情報の中から「本当に必要なもの」を見つけることが大切です。それは「藁の山から一本の針を見つけるような」ことです。先日、正に、ちょうど今これが必要であったというような資料に出くわしました。しかも、それは、いつか役立つだろうと思って保存していた論文でした。大切な情報でも、その人にとってその時にこそ意味を持つものは多くはありません。「祈りつつ学ぶ」ときに、主が導いてくださるのです。時間も、情報も、アイデアも、能力も、視力も、座力も、主が与えて下さるということを具体的に経験することが大切です。

今、このとき、何が「本当に必要なもの」であるのか。これは限られた人生を、主の前に、敬虔に生きるために大切な基準ではないかと思えます。

宣教会の図書館が、「本当に必要なもの」を提供していくことが出来るように、引き続きお祈りください。

## 夏期研修講座に参加すること

恵みバプテスト教会牧師 今井暢彦

研修生時代から、ずっとつづけて夏期講座に参加しています。卒業して富山の教会に招聘された時、この講座に参加できることを条件に赴任しました。夏が来ることをとても楽しみにしています。「釈義から説教へ」をテーマにした講習が、ここ三年間続いています。前もって聖書テキストを良く読んでおいてください、との注文が付きます。三年前はそのテキストを予習しておくだけでした。しかし二年前から、研修講座に出る前後に、予定されている聖書テキストを礼拝の説教箇所としました。講座での学びを、教会のみなさんと共有したいと思ったからです。講座の前から、釈義と説教を主が守ってくださいました。こうして、より積極的に参加できるようになりました。研修講座後は、学びの大きな収穫を教会のみなさんと分かち合っています。

## 主の御名を賛美します

西堀キリスト福音教会 岩崎眞弓

今年も教会音楽夏期講習会に参加を許されました事感謝でした。3回目の参加となりますが今年も本当に恵みに満ちあふれた3日間でした。分科会では宣教会の大きなパイプオルガンを弾く機会を与えていただき感謝でした。普段は電気のオルガンを演奏しておりますが、パイプオルガンとは全く違う楽器であると感じました。自分は何者でもなく、ただ主のみめぐみにより救われた、行いによるのではなくすべての人に与えられる神の愛による、そして賛美する者はこの世での命を終えるその時まで、みことばにより頼み、みことばを内に住ませ、聖霊によって賛美させていただくのだ、ということを感じさせていただきました。ご指導してくださった先生方に感謝いたします。そして3日間守り導いてくださった主に感謝しています。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。」詩篇 103:1

## 夏期研修講座『ヘブル語コース』を受講させていただいて

湘南のぞみキリスト教会牧師 山中直義

みことばに仕える。そのことにおいて少しでも成長させていただきたい。神学舎卒業以来、その渴きは益々強くされています。そんな折り、夏期研修講座にヘブル語コースが設けられたことを知り、即座に受講を決意しました。

3日間の講義のために鞭木先生が特別にご用意くださった資料、そして実際の講義は、受講者6名の予想を遙かに上回る素晴らしいものでした。アルファベットからはじまり釈義上の留意点まで、本当に幅広い内容を俯瞰的に振り返りつつ、継続して学び続けることの重要性を改めて教えて頂きました。

ヘブル語コースを受講しつつ、3つの全体講義も聴かせていただくことができました。講義を通して共通して教えられたこと。それは、徹底してみことばに聴くことの重要性と責任であったように思います。

快く遣わしてくださった教会の兄弟姉妹、多大な労苦を厭わず教えて下さった神学舎の先生方に、心から感謝しています。

## 目から鱗の

三好キリスト教会 板谷実佳

教会音楽夏期講習会に参加させていただき、私自身、賛美することについて改めて考えさせられる大変意義深い時となりました。何よりも印象的だったのは、賛美を通してみことばを味わい知り、さらにそのみことばの深みによって、ますます賛美が生きたものとなっていくことを体験的に知ることができたことでした。これまで賛美について深く考えたことがなかった私にとって、新しい発見と気付きの連続で、まさに目から鱗が落ちるような経験でした。

賛美を通して、創造主、また救い主であられる神様を、生きている限りほめたたえることができるというこの上ない喜びを、もっと教会で分かち合い、共有したいと願っています。そして、私自身が常にみことばに生かされ、柔らかな心で神様に向かって賛美する者でありたいと思います。

講習会に携わってくださった先生方、職員また研修生の方々に心より感謝申し上げます。

## 舟喜順一先生記念会のお知らせ

今年4月13日に召された聖書神学舎の創立者舟喜順一先生の記念会を下記の要領で行ないます。単に故人を偲ぶというにとどまらず、順一先生から受け継いだことを再認識し、今後の歩みに生かす機会といたく願っていますので、ふるってご参加ください。

■名称：舟喜順一先生記念会 ～回顧と展望～

■日時：10月18日(月) 午後2時

■場所：聖書宣教会チャペル

■内容：第1部 講演「戦後の福音派と順一先生～聖書信仰の戦いの軌跡～」

講師(後藤茂光師)

第2部 証し(卒業生、舟喜晃子夫人)

第3部 まとめと展望(鞭木師)

記念会后、茶話会を持ちます。

当日、聖書論に関する順一先生の論文を小冊子にして配布いたします。

## 「オープンデイ」のお知らせ

11月6日(土)

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会として是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~ 10:35	III ~ IV 10:50~12:30
1年	ギリシャ語(中級) (岡本昭世)	チャペル (津村俊夫)	ヘブル語 新約各書I (松本任弘)(岡本昭世)
2年	旧約研究I(五書) (津村俊夫)		旧約神学 (鞭木由行)
3年	宣教学II(異教・異端) (赤坂 泉)		研修生との 懇談の時
4年	弁証論II(創造論) (小林久実)		弁証論II(創造論) (小林久実)

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

## 「賛美礼拝」のお知らせ

11月27日(土) 14:30

共に主の御名を賛美し、主を礼拝する時としてどなたもご参加いただけます。今年の賛美礼拝のテーマは「さらにすぐれた希望」(ヘブル人への手紙7章19節)です。ご多忙な中とは思いますが、是非ご参加くださいますように、ご案内申し上げます。

### テーマ：さらにすぐれた希望

「一律法は何事も全うしなかったのです。他方で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私たちはこれによって神に近づくのです。」

ヘブル人への手紙7章19節

曲目：救いはただ主の恵みの賜物(P.Speratus / 大角欣矢 J.S.Bach, H.Distler, M.Praetorius)、しかし今は律法とは別に(ローマ3:21, 22 岳藤豪希)、われ心を尽くして(詩篇9:1, 2 岳藤豪希)、キリストは(Iテモテ2:6a 岳藤豪希)ほか

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

## 編集後記

酷暑や災害で、国内外で多くの犠牲の報じられた夏でした。皆さまが本号を手にとってくださる頃にはどのようなになっているでしょう。宣教会に昨年整備された空

調に助けられて主に感謝しつつ、この世界に主の平和が実現することを祈っています。(A)